

## 外来語に関する基礎的研究 (Ⅶ)

— “美麗” にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法①—

## A Study of Loanwords in Japanese (Ⅶ)

—The Usage of Na Adjectives Belong to the Meaning Distribution Area of ‘Beauty’①—

戸 田 利 彦

Toshihiko TODA

In the last paper, 15 Japanese adjectives (6 na adjective loanwords, 4 pure Japanese adjectives and 5 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘fascination’ based on Ruigo Kokugo Jiten are analyzed from the three points of view.

In this paper, 15 Japanese adjectives (1 na adjective loanwords, 10 pure Japanese adjectives and 4 Japanese adjectives of Chinese origin) which belong to the meaning distribution area of ‘beauty (ugliness)’ based on Ruigo Kokugo Jiten were analyzed from the following points of view.

- 1 : objects (67 items) divided into physical or mental characteristics, things and events of adjectives
- 2 : attributes (36 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives
- 3 : phase and style (10 items) divided into physical or mental characteristics and things of adjectives

Through the above analysis, usages of na adjective loanwords (mainly the the usage of ‘gurotesuku (grotesque)’) are summarized. One of the most important usages of ‘gurotesuku (grotesque)’ is that it is used in everyday life to express the abnormal shocking ugliness of things.

### I. 研究の目的と方法

外来系「な」形容詞<sup>(21)</sup>の研究の視点としては、以下のものが考えられる。①実際に使用されているものの収集・整理、②使用実態の調査・分析、③意味領域及びその分布の分析、④各意味領域の内実の分析、⑤語義及びその原義との違いの分析・記述、⑥語種を異にする類義語間の語義及び位相・文体の違いの分析・記述、⑦基本度の設定

本稿では、④及び⑥の視点から、“姿態”の中の“美麗(特に醜悪)”にかかわる外来系「な」形容詞をく対象<属性><位相・文体>の観点から、“美麗(特に醜悪)”にかかわる和語・漢語の類義語と比較しながら分析し、「グロテスクな」を中心に意味用法を記述することを目的とする。

### II. 分析の対象と観点

#### (1)分析の対象

『類語国語辞典』(大野晋/浜西正人著 角川書店1985)の語彙分類体系表に基づき、使用比率<sup>(22)</sup>によって10段階に分けられた308語の「な」形容詞の意味領域を調査した結果、小分類意味領域(全1000項目)の1つである“美麗(特に醜悪)”(顔つき・姿などが醜いこと)の意味領域には、「グロテスクな」の1例のみが属することがわかった<sup>(23)</sup>。この1例を外来語として取り上げることにした。

また、上述の辞典の“美麗(特に醜悪)”の意味領域に掲載されている29例のうち、外来語・混種語を除く26例のうち「みにくい」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」「いかつい」「醜悪な」「生硬な」「不格好な」「不細工な」の9例を選び、さらに「なまなましい」

「まがまがしい」「おどろおどろしい」「気持ち悪い」「気味悪い」の5例を考察対象に加え、計14例(和語10例, 漢語4例)を取り上げた。

以上15例の“美麗(特に醜悪)”にかかわる語を比較対象しながら、「グロテスクな」の意味用法を分析することにした。

(2)分析の観点

“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞の特徴を分析するにあたって、まず、個々の語の〈タイプ〉を調査した。その上で、〈対象〉〈属性〉〈位相・文体〉の観点から分析を行なった。以下、調査項目及び分析の観点の内実を示しておく。

〈語 種〉

考察対象として取り上げた15例の“美麗(特に醜悪)”にかかわる語の選定の経緯をふまえた上で、語種面からの数量的バランスについて調査した。

〈ランク〉

使用比率によって10段階に分けたランクについて個々の外来系「な」形容詞ごとに調査した<sup>24)</sup>。

〈タイプ〉

形容詞・形容動詞は、終止形、連体形、連用形で文に現れるが、これら3種の用法が全て可能か否かは個々の語によって異なる。そこで、形容詞・形容動詞を用法別に以下の6つのタイプに分類し、タイプを個々の語ごとに調査した。

タイプ 用法	I	II	III	IV	V	VI
終止用法	+	+	+	-	-	-
連体用法	+	+	-	+	+	-
連用用法	+	-	-	+	-	+

〈X:対象〉

A:〈人〉

a:性 1:〈男性〉 2:〈女性〉

(それぞれについて使えるか)

b:年齢 1:0~9歳 2:10~19歳

3:20~29歳 4:30~39歳

5:40~49歳 6:50~59歳

7:60~69歳 8:70~79歳

9:80歳以上

(それぞれの年齢層で使えるか)

c:身体 1:体(つき) 2:髪 3:頭

4:顔 5:額 6:眉

7:眉毛 8:目(もと) 9:目尻

10:耳(もと) 11:耳たぶ 12:鼻

13:頬(えほ) 14:口(もと) 15:唇

16:舌 17:あご 18:首

19:首枕(くび) 20:のど 21:肩

22:腕 23:手 24:指

25:爪 26:胸 27:腹

28:へそ 29:腰 30:尻

31:もも 32:太もも 33:脚

34:ひざ 35:すね 36:ふくらはぎ

37:足 38:足首 39:かかと

40:容儀(ようぎ) 41:容姿 42:表情(めいじょう)

43:声 44:しぐさ 45:態度(たいど)

46:行為(こうゐ) 47:思考(しこう)・想像(そうざう)・記憶

(これらの語を対象とするか)

d:装い 1:服装・身なり 2:着こなし  
3:髪型

(これらの語を対象とするか)

e:精神 1:気持ち・気分 2:心  
3:性格 4:人格

(これらの語を対象とするか)

B:〈もの〉

(人間に直接かわからない“もの”を対象とするか)

C:〈こと〉

(人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かわかるものや事柄を指したりしない抽象名詞や事柄を対象とするか)

以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。

○:一般的に対象とする

△:対象としえなくもないが必ずしも一般的でない

×:対象としえない

〈Y:属性〉

A:〈人〉

a:評価 1:〈主観性〉(主観的な評価であるか)

2:〈客観性〉(客観的な評価であるか)

b:内実 1:〈官能性〉(性的なあやしさを示すか)

2:〈愛情性〉(かわいらしさを示すか)

3:〈神聖性〉(上品さを示すか)

4:〈豊満性〉(肉付きのよさを示すか)

5:〈屈強性〉(頑丈で強い様子を示すか)

6:〈男性性〉(男らしさを示すか)

7:〈女性性〉(女らしさを示すか)

8:〈意図性〉(意志や意図を示すか)

9:〈羞恥性〉(恥ずかしさを示すか)

10:〈異状性〉(普通とかなり異なっていることを示すか)

11:〈衝撃性〉(驚くべきことであることを示すか)

12:〈忌避性〉(忌み避けるべきことであることを示すか)

13:〈生理性〉(生理的な不快感を示すか)

- 14: <恐怖性>(恐ろしさを示すか)  
 c: 感覚 1: <視覚性> 2: <聴覚性>  
 3: <触覚性>  
 (それぞれの感覚を示すか)  
 d: 時間 1: <一時性>  
 (<人>の精神を対象とし、一時的な気持ちや感情を示すか)  
 2: <持続性>  
 (<人>の精神を対象とし、一定期間持続する心や性格を示すか)  
 B: <もの>  
 a: 評価 1: <主観性> 2: <客観性>  
 b: 内実 1: <神聖性> 2: <屈強性>  
 3: <羞恥性> 4: <異状性>  
 5: <衝撃性> 6: <忌避性>  
 7: <生理性> 8: <恐怖性>  
 c: 感覚 1: <視覚性> 2: <聴覚性>  
 3: <嗅覚性> 4: <味覚性>  
 5: <触覚性>

- <Z: 位相・文体>  
 A: <人> 1: <談話性>  
 (会話の中で話し言葉としてよく使われるか)  
 2: <文章性>  
 (文章の中で書き言葉としてよく使われるか)  
 3: <雅語性>  
 (美意識に基づく優雅な言葉として使われるか)  
 4: <俗語性>  
 (<だけた世俗的なニュアンスを持つ言葉として使われるか)  
 5: <日常性>  
 (日常生活の中で普通によく使われるか)  
 B: <もの> 1: <談話性> 2: <文章性>  
 3: <雅語性> 4: <俗語性>  
 5: <日常性>

以上の観点に関して、その特徴が認められるか否かを〔Y: <属性>〕と同じ記号を用いて分析した。

以上の観点に関して、以下の記号を用いて分析した。

- : その属性が明確に認められる  
 △: その属性がある程度認められる  
 ×: その属性がほとんどもしくは全く認められない

### Ⅲ. 分析の結果

以上の調査及び分析の結果を、以下の表にまとめて示した。

分析の観点	語種 ランク	形容詞・形容動詞	和 語										漢 語						
			外 来 語										漢 語						
			B																
			グロテスクな	みにくい	なまなましい	まがましい	おどろおどろしい	気持ち悪い	気味悪い	きたない	きたならしい	見苦しい	いかつい	醜悪な	生硬な	不格好な	不細工な		
			II	I	I	II	I	II	II	II	II	I	II	I	I	II	II		
X: 対象	A: (人)	a: 性	1 <男性>	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		2 <女性>	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		b: 年齢	1 0~9歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			2 10~19歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			3 20~29歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			4 30~39歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			5 40~49歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			6 50~59歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			7 60~69歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8 70~79歳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○		
	9 80歳以上	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○		
c: 身体	1 体(つき)	△	×	×	×	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	○	○		
	2 髪	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	3 頭	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	4 顔	○	×	×	×	△	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×		
	5 額	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	6 眉	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	7 眉毛	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	8 目(もと)	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	9 目尻	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	10 耳(もと)	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		
	11 耳たぶ	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×		



分析の観点		語種		和語										漢語					
		ランク	外来語	和語										漢語					
		形容詞・形容動詞	B	みにくい	なまなましい	まがまがしい	おどろおどろしい	気持ち悪い	気味悪い	きたない	きたならしい	見苦しい	いかつい	醜悪な	生硬な	不格好な	不細工な		
タイプ	II	I	I	II	I	II	II	II	II	I	II	I	I	II	II				
Y・属性	A(人)	b:内実	6	<男性性>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		
			7	<女性性>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
			8	<意図性>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
			9	<羞恥性>	X	X	X	X	X	X	X	X	○	X	X	X	X	X	
			10	<異状性>	△	△	△	△	○	X	X	X	X	X	△	△	△	△	
			11	<衝撃性>	△	○	○	△	○	X	X	△	△	○	X	X	X	X	
			12	<忌避性>	○	○	○	△	○	X	X	△	△	○	X	X	X	X	
			13	<生理性>	X	X	X	○	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
			14	<恐怖性>	X	△	△	△	△	X	△	X	X	X	X	X	X	X	
			c:感覚	1	<視覚性>	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
				2	<聴覚性>	X	△	△	X	○	○	○	○	X	X	X	X	X	X
				3	<触覚性>	X	X	X	X	○	X	X	X	X	X	X	X	X	X
			d:時間	1	<一時性>		△						△			△			
				2	<持続性>								△						
B(もの)	a:評価	1	<主観性>	△					○	○	△	△			X	X			
		2	<客観性>	△					X	X	△	△			○	○			
	b:内実	1	<神聖性>	X					X	X	X	X			X	X			
		2	<屈強性>	X					X	X	X	X			△	X			
		3	<羞恥性>	X					X	X	X	X			X	X			
		4	<異状性>	○					X	X	X	△			X	△			
		5	<衝撃性>	○					X	X	X	△			X	X			
		6	<忌避性>	X					X	X	△	△	○		X	X			
		7	<生理性>	○					○	○	X	X			X	X			
		8	<恐怖性>	△					X	△	X	X			X	X			
	c:感覚	1	<視覚性>	○					○	○	○	○	○		○	○			
		2	<聴覚性>	X					○	X	X	X			△	X			
		3	<嗅覚性>	X					X	X	X	X			X	X			
		4	<味覚性>	X					X	X	X	X			X	X			
5		<触覚性>	X					○	X	X	X			X	X				
Z:位相・文体	A(人)	1	<談話性>	△	X	X	X	○	○	○	○	△	△	X	△	△			
		2	<文章性>	△	△	△	○	X	X	X	X	△	△	○	△	△			
		3	<雅語性>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
		4	<俗語性>	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			
		5	<日常性>	△	X	X	X	○	○	○	○	△	X	X	△	△			
	B(もの)	1	<談話性>	△					○	○	○	△			X	△			
		2	<文章性>	X					X	X	X	X			○	△			
		3	<雅語性>	X					X	X	X	X			X	X			
		4	<俗語性>	X					X	X	X	X			X	X			
		5	<日常性>	○					○	○	○	△			X	△			

### Ⅳ. 結果の考察

まず、〈語種〉、〈ランク〉、〈タイプ〉について考察しておく。

〈語種〉

『類語国語辞典』には、いわゆる形容詞・形容動詞として外来語が1例、和語が14例、漢語が7例、混種語が1例掲載されている。「グロテスクな」との類

義性の考察に主眼を置く場合、漢語の「無様な」「不体裁な」「地味な」の3例は他の例に比して語義的にやや離れていると判断して分析の対象から外した。和語に関しては、「むさ苦しい」「うすぎたない」「小ぎたない」「みっともない」「しどけない」「野暮な」「野暮ったい」「色消しな」「艶消しな」も候補にあげたが、いずれも、語義的に離れていると考え、分析対象としては取り上げなかった。混種語の「蜜カ

ラな」も同様の理由で取り上げなかった。新たに付加した5例の和語を含めて、結果として“美麗(特に醜悪)”にかかわる語として、15例を取り上げることになった。数量的にみる限り、語種の面では和語が圧倒的に多く、次いで漢語が多く、外来語は「グロテスクな」の1例のみであり、外来語の占める割合はかなり低い点が特徴である。

〈ランク〉

「グロテスクな」の使用比率ランクはBである。この語は『類語国語辞典』に掲載されているものであるが、使用比率は比較的高いことを確認しておきたい。

〈タイプ〉

終止、連体、連用の各用法がすべて可能であるタイプのIは、和語の4例、漢語の2例である。終止、連体の各用法は可能であるが連用用法がないタイプのIIは、外来語の1例、和語の5例、漢語の2例である。以下、タイプIに属する語の連用用法の用例を示しておく。「みにくくゆがむ」「なまなましく伝えられる」「おどろおどろしく渦巻く」「みぐるしくゆがむ」「醜悪にゆがむ」「生硬に描く」

以上の結果をふまえた上で、観点別に分析結果を考察しておく。

まず、X：対象についてみておく。

[A：〈人〉]

a：性

〈男性〉〈女性〉の区別なく使用されるものに「みにくい」「なまなましい」「まがまがしい」「おどろおどろしい」「気持ち悪い」「気色悪い」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」「醜悪な」「不格好な」「不細工な」の12例がある。また、〈女性〉に用いることも全くないわけではないが、ほとんど〈男性〉に用いるものに「いかつい」の1例がある。一方で、〈男性〉〈女性〉による明確な使い分けが見られないものが15例の中で計14例ある点は、“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞の特徴にあげられよう。「グロテスクな」は〈人〉を対象としない点において「生硬な」と共通点を持つと言える。

b：年齢

年齢的に制約があるものとなないものに大別する方法を取る場合<sup>25)</sup>、「いかつい」の1例は制約があることになる。また、年齢的に制約があるものを、

- (i) 一定の年齢以上で主として用いられるもの、
- (ii) 一定の年齢未満で主として用いられるもの、
- (iii) 一定の年齢枠の中で主として用いられるもの、

の三つに分類方法をとる場合、「いかつい」は(iii)

に属することになる。主として頑丈なあるいは頑丈そうな肉体を持つ男性が対象となる。

c：身体

この観点に関しては、

- (i) 1 体(つき)、
- (ii) 2 髪~39 かかと・きびす、
- (iii) 40 容貌・顔立ち、41 容姿、
- (iv) 42 表情・目つき~44 しぐさ、
- (v) 45 態度・動作、46 行為・体験、
- (vi) 47 思考・想像・記憶、

の6つに分けて考察しておく。

(i) 1 体(つき)

“体(つき)”を対象とするものに「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「いかつい」「不細工な」の6例がある。これらの例は“肉体としての体全体”を対象としうるものである。

(ii) 2 髪~39 かかと・きびす

ここでは5例以上に〇がつくものについて考察しておく。“体”を構成する部分の中で、“顔”を対象とするものに、「みにくい」「まがまがしい」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「いかつい」「醜悪な」「不細工な」の9例がある。“額”“眉”“鼻”“口(もと)”“唇”“あご”“肩”“尻”“脚”については、それぞれ「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「不細工な」の5例がある。“手”及び“指”については、それぞれ「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「いかつい」の5例の対象となる。

(iii) 40 容貌・顔立ち 41 容姿

“容貌・顔立ち”は、部分的要素を含めた顔全体の形や様子を、“容姿”は顔立ちと体つきを含めた体全体の形や様子であり、いずれも総合的な姿や様子を示す。まず、後者のみを対象とするものがない点が特徴的である。両者を共通に対象とするものに、「みにくい」「まがまがしい」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」「醜悪な」「不格好な」「不細工な」の10例がある。「なまなましい」「おどろおどろしい」以外は少なくともいずれか一方を対象とする点、“容貌・顔立ち”“容姿”は、“c：身体”の中では、それを対象とする層の厚い語群を有していると言える

(iv) 42 表情・目つき~44 しぐさ

“表情”は顔による、“声”は音声器官による、

“しぐさ”は身体の部分による動きを含む様子であり、いずれも一種の身体表現である。三者を共通に対象とするものに、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例が、三者共に対象としないものに、「いかつい」の1例がある。

(v) 45 態度・動作, 46 行為・体験

“しぐさ”より広範な動きを含む様子を“態度・動作”とし、それをさらに一般化したものを“行為・体験”とした。両者共に対象とするものに、「みにくい」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「見苦しい」の5例が、両者共に対象としないものに、「まがまがしい」「きたならしい」「醜悪な」の3例がある。

(vi) 47 思考・想像・記憶

“思考・想像・記憶”は、人間の頭脳による能動的な活動であり、“行為・体験”に隣接するものである。これを対象とするものは、「みにくい」「なまなましい」「おどろおどろしい」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」の6例である。それぞれ“みにくい思考(考え)”“なまなましい記憶”“おどろおどろしい想像(妄想)”“気持ち悪い記憶”“気味悪い記憶”“きたない思考(考え)”などの用例を持つ。

d: 装い<sup>90)</sup>

1 服装・身なり

身に付けた衣服の様や衣服を着た姿を“服装・身なり”としたが、全15例の形容詞・形容動詞の中で、これを対象とするものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」「不格好な」「不細工な」の7例である。

2 着こなし

衣服の身に付け方を“着こなし”としたが、“服装・身なり”と同じ(○△の違いはあるが)結果である。

3 髪型

“髪”が体の一部であるのに対して、“髪型”はファッションともいふべき装いである。これを対象とするものは、“服装・身なり”“着こなし”と同じ(○△の違いはあるが)である。

e: 精神

1 気持ち・気分

その場における一時的な心の状態、すなわち感情を“気持ち・気分”として取り上げたが、これを対象とするものはない。

2 心

必ずしも一時的ではない心のあり様、すなわち情意を中心とした精神活動を“心”として取り上げたが、これを対象とするものは、「みにくい」「きたない」「醜悪な」の3例である。身体の様子に関するいわゆる“醜さ”を“心”にも適用したものとさえよう。

3 性格

人間の持続的な性向を“性格”として取り上げたが、これを対象とするものは、「きたない」の1例のみである。

4 人格

人間の持続的な品格を“人格”として取り上げたが、これを対象とする“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞はない。

“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞は、人間の内面に深く関与する語を対象としにくいと言えよう。

[B: <もの>]

人間に直接かかわらないものを“もの”としたが、○、すなわち‘一般的に対象としうる’ものとして、「グロテスクな」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」「生硬な」「不格好な」「不細工な」の9例がある。“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞の6割のものが“もの”を対象とすることがありうることを示しており、また、かなり自由に対象を設定できる点は注意が必要である。

「グロテスクな」は“もの”を対象にする。

[C: <こと>]

人間やものなどの具体物を指したり人間に直接かかわるものや事柄を指したりしない、抽象名詞や事柄を“こと”としたが、これを対象とするものは基本的にない。

「グロテスクな」は“こと”を対象としえない。

次に、Y: 属性についてみておく。

[A: <人>]

a: 評価

<主観性><客観性>がいずれも△、つまり明確にどちらがあるとも言えないものは、「きたない」「きたならしい」「見苦しい」の3例である。<客観性>よりも<主観性>が強いものは、「おどろおどろしい」「気持ち悪い」「気味悪い」の3例がある。一方、<主観性>よりも<客観性>が強いものは、「みにくい」「なまなましい」「まがまがしい」「いかつい」「醜悪な」「不格好な」「不細工な」の7例がある。この7例は、<人>に関する“美麗(特に醜悪)”な様子を比較的客観的に評価する語

群と言える。

「グロテスクな」は(人)の属性を示しえない。

b: 内実

1 <官能性>

<官能性>すなわち“性的なあやしさ”が認められるものはない。

2 <愛情性>

<愛情性>すなわち“かわいらしさ”が認められるものはない。

3 <神聖性>

<神聖性>すなわち“上品さ”が認められるものはない。

4 <豊満性>

<豊満性>すなわち“肉付きのよさ”が認められるものはない。

5 <屈強性>

<屈強性>すなわち“頑丈で強い様子”が明確に認められるものが、「いかつい」の1例あるのみである。「いかつい」はやわらかみがなくかどばった様子を示す点が他の語と異なる。

6 <男性性>

<男性性>すなわち“男らしさ”がある程度認められるものが、「いかつい」の1例あるのみである。

7 <女性性>

<女性性>すなわち“女らしさ”が認められるものはない。

8 <意図性>

<意図性>すなわち“意志や意図”が認められるものはない。

9 <羞恥性>

<羞恥性>すなわち“恥ずかしさ”が明確に認められるものが、「見苦しい」の1例あるのみである。

10 <異状性>

<異状性>すなわち“普通とかなり異なっていること”が明確に認められるものは、「おどろおどろしい」の1例である。ある程度認められるものは、「みにくい」「なまなましい」「まがまがしい」「見苦しい」「醜悪な」「不格好な」「不細工な」の7例である。これらは、“常識からかけ離れた非日常的な様子”という要素を持っている語と言える。

11 <衝撃性>

<衝撃性>すなわち“驚くべきことであること”が明確に認められるものは、「なまなましい」「おどろおどろしい」の2例である。ある程度認め

られるものは、「みにくい」「まがまがしい」「見苦しい」「醜悪な」の4例である。

12 <忌避性>

<忌避性>すなわち“忌み避けるべきことであること”が明確に認められるものは、「みにくい」「なまなましい」「まがまがしい」「見苦しい」「醜悪な」の5例がある。ある程度認められるものは、「おどろおどろしい」「きたない」「きたならしい」の3例がある。

13 <生理性>

<生理性>すなわち“生理的な不快感”が明確に認められるものに、「おどろおどろしい」「気持ち悪い」「気味悪い」の3例がある。

14 <恐怖性>

<恐怖性>すなわち“恐ろしさ”がある程度認められるものに、「なまなましい」「まがまがしい」「おどろおどろしい」「気味悪い」の4例がある。

c: 感覚

1 <視覚性>

<視覚性>は13例のうち、12例に明確に認められる。「おどろおどろしい」にはある程度認められる。

2 <聴覚性>

<聴覚性>, 具体的には“人間の声”に対する感覚が明確に認められるものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例である。ある程度認められるものは、「なまなましい」「まがまがしい」の2例である。

3 <触覚性>

<触覚性>, 具体的には“ものの手ざわり”に対する感覚が明確に認められるものが、「気持ち悪い」の1例あるのみである。

d: 時間

1 <一時性>

<一時性>すなわち“人間の一時的な気持ちや感情”であることがある程度認められるものに、「みにくい」「きたない」「醜悪な」の3例がある。“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞は、“気持ち”や“感情”などの人間の内面までは対象としにくいと言えよう。

2 <持続性>

<持続性>すなわち“人間の一定期間持続する心や性格”であることがある程度認められるものが、「きたない」の1例あるのみである。ここからも“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・



形容動詞は、“心”や“性格”などの人間の内面までは対象としにくいことがわかる。

[B: くもの]

a: 評価

〈主観性〉〈客観性〉がいずれも△,つまり明確にどちらがあるとも言えないものは、「グロテスクな」「きたない」「きたならしい」「見苦しい」の4例である。〈客観性〉よりも〈主観性〉が強いものは、「気持ち悪い」「気味悪い」の2例である。一方、〈主観性〉よりも〈客観性〉が強いものは、「生硬な」「不格好な」「不細工な」の3例である。

b: 内実

1 〈神聖性〉

〈神聖性〉すなわち“上品さ”が認められるものはない。

2 〈屈強性〉

〈屈強性〉すなわち“頑丈で強い様子”がある程度認められるものが、「生硬な」の1例あるのみである。

3 〈羞恥性〉

〈羞恥性〉すなわち“恥ずかしさ”が認められるものはない。

4 〈異状性〉

〈異状性〉すなわち“普通とかなり異なっていること”が明確に認められるものは、「グロテスクな」の1例である。ある程度認められるものは、「見苦しい」「不格好な」「不細工な」の3例である。

5 〈衝撃性〉

〈衝撃性〉すなわち“驚くべきことであること”が明確に認められるものは、「グロテスクな」の1例である。ある程度認められるものは、「見苦しい」の1例である。

6 〈忌避性〉

〈忌避性〉すなわち“忌み避けるべきことであること”が明確に認められるものは、「見苦しい」の1例である。ある程度認められるものは、「きたない」「きたならしい」の2例である。

7 〈生理性〉

〈生理性〉すなわち“生理的な不快感”が明確に認められるものは、「グロテスクな」「気持ち悪い」「気味悪い」の3例である。

8 〈恐怖性〉

〈恐怖性〉すなわち“恐ろしさ”がある程度認められるものは、「グロテスクな」「気味悪い」の2例である。

c: 感覚

1 〈視覚性〉

〈視覚性〉が9例全てに明確に認められる。

2 〈聴覚性〉

〈聴覚性〉,具体的には“ものの音”に対する感覚が明確に認められるものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例である<sup>27)</sup>。ある程度認められるは、「生硬な」の1例である。

3 〈嗅覚性〉

〈嗅覚性〉,具体的には“ものの匂い”に対する感覚を属性に持つものはない。

4 〈味覚性〉

〈味覚性〉,具体的には“ものの味”に対する感覚を属性に持つものはない。

5 〈触覚性〉

〈触覚性〉,具体的には“ものの手ざわり”に対する感覚が明確に認められるものが「気持ち悪い」の1例あるのみである。

次に、Z:位相・文体についてみておく。

[A: く人]

1 〈談話性〉

〈談話性〉が明確に認められるものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例である。ある程度認められるものは、「みにくい」「見苦しい」「いかつい」「不格好な」「不細工な」の5例である。

2 〈文章性〉

〈文章性〉が明確に認められるものは、「まがまがしい」「おどろおどろしい」「醜悪な」の3例である。ある程度認められるものは、「みにくい」「なまなましい」「見苦しい」「いかつい」「不格好な」「不細工な」の6例である。漢語の全てが明確なあるいはある程度の〈文章性〉を有している。

3 〈雅語性〉

〈雅語性〉が認められるものは“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞にはない。

4 〈俗語性〉

〈俗語性〉が認められるものは“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞にはない。

5 〈日常性〉

〈日常性〉が明確に認められるものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例である。ある程度認められるものは、「みにくい」「見苦しい」「不格好な」「不細工な」の4例である。

[B: <もの>]

1 <談話性>

<談話性>が明確に認められるものは、「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の4例である。ある程度認められるものは、「グロテスクな」「見苦しい」「不格好な」「不細工な」の4例である。

2 <文章性>

<文章性>が明確に認められるものは、「生硬な」の1例である。ある程度認められるものは、「見苦しい」「不格好な」「不細工な」の3例である。

3 <雅語性>

<雅語性>が認められるものは“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞にはない。

4 <俗語性>

<俗語性>が認められるものは，“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞にはない。

5 <日常性>

<日常性>が明確に認められるものは、「グロテスクな」「気持ち悪い」「気味悪い」「きたない」「きたならしい」の5例である。ある程度認められるものは、「見苦しい」「不細工な」「不格好な」の3例である。

最後に本稿のまとめとして、「グロテスクな」の意味用法について記しておく。

①「グロテスクな」は非日常的なものの衝撃的で異様な様子を表す。具体的には、‘生きものの内臓’‘カエルの卵’‘オコゼの顔’‘模様入りのヘビ’‘ピラニアの歯’など個人によって対象は多様である。②マイナスイメージの語である。③生理的な不快感や恐怖感を内包し、ある程度の主観性も持つ。④ものを対象とする点が、人を対象とする漢語の「醜悪な」と異なる。⑤ものを対象とする点では、漢語の「生硬な」と似ている。⑥会話の中で話し言葉として比較的良好に使われる点が、文章の中で書き言葉として使われることの多い「生硬な」と異なる。⑦日常生活の場面で言い換えが可能な語が他にないので、日常語として使われる。⑧使用比率はかなり高い語である。⑨終止、連体の各用法は可能であるが連用用法はない。⑩“美麗(特に醜悪)”にかかわる形容詞・形容動詞の中で唯一の外来語であり、意味領域面で特異かつ重要な位置を占めている。

今後は、“醜悪”以外の“美麗”にかかわる外来系「な」形容詞の意味用法の記述及びそれらと語種を異にする類義語間の語義、位相・文体の分析・記述を行ないたい。

[注]

- 1) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅱ)―「な」形容詞の語形を中心に―」,『比治山女子短期大学紀要』第29号, 1994, P.54.
- 2) 「話すとき使う」とした人数の全体に占める割合、すなわち使用人数の比率を、使用比率と略記する。
- 3) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(V)―外来系「な」形容詞の意味分布について―」,『比治山大学現代文化学部紀要』第3号, 1996, P.19.
- 4) 戸田利彦「外来語に関する基礎的研究(Ⅲ)―話しことばにおける「な」形容詞の使用実態―」,『比治山大学現代文化学部紀要』創刊号, 1994, 「外来語に関する基礎的研究(Ⅳ)―外来系「な」形容詞の使用比率―」,『同上紀要』第2号, 1995, の調査結果に基づく。使用比率ランクは、「話すとき使う」とした人数の割合による以下の基準(%)で、10段階を設定した。A (100~91) B (90~81) C (80~71) D (70~61) E (60~51) F (50~41) G (40~31) H (30~21) I (20~11) J (10~0)
- 5) △または×を含むものを“年齢的に制約があるもの”, 全て○ばかりのものを“年齢的に制約のないもの”とした。
- 6) “服装”“身なり”などは、“人間に直接かかわるもの”として“[A: <人>]”の中で扱った。
- 7) これらは単なる“物音”ではなく、ある程度意図的に創り出された“音”に対する感覚を有する語群である。

<キーワード>

外来系「な」形容詞／美麗／対象／属性／位相・文体  
(言語文化学科 日本語文化専攻)  
(1999. 10. 29. 受理)